

「自転車を利用した都市づくり」

自転車は、国や地域、性別、年齢を問わず広く利用されている最も身近な、人に優しい乗り物です。例えば映画の中でも、おなご先生が颯爽と登場した「二十四の瞳」、相棒の彼女をハンドルに乗せてはしゃいでいた「明日に向かって撃て!」、少年が空を飛んで夢を膨らませた「E・T」、親子の三人乗りが幸せの頂点を表していた「ライフ・イズ・ビューティフル」など、明るく、人の温かみが伝わってくるような場面に多く登場するようです。

さらに、自転車は、二酸化炭素を排出しない、環境に優しい乗り物としても、再評価されつつあります。

香川県、特に高松市は、少雨温暖な気候や平坦な市街地などにより市民の日常生活で、活発に自転車が利用されている地域です。通勤通学に自転車を利用する人の割合も27%と全国平均の約2倍あります。また、市内中心部7か所のサイクルポートで一日平均約850台が稼働している本市のレンタサイクルシステムは、全国的にみても最も成功している例の一つだと言われています。

その反面、自転車事故は全国ワースト1位となっていて、自転車の交通ルールが徹底されておらず、マナーの悪さが指摘されています。

このような現状を踏まえた上で、自転車にスポットを当てて、ハード、ソフト両面から各種対策を講じていこうと、「高松地区における自転車を利用した都市づくり計画」が、昨年末に策定されました。国、県、警察、市、民間事業者などの関係者が一堂に会し、自転車利用のための環境整備、マナーの向上などを図っていこうとする試みは、全国的にも珍しく、模範例だとの評価もいただいています。すでに実施に移されている対策もあり、中央通りの自転車と歩行者の分離が徹底され、接触事故が減るなどの成果が報告されています。2月2日からは、自転車専用道の社会実験も始まります。また、カーフリー高松の継続実施や自転車を鉄道に乗せるサイクリトレインの検討なども計画に盛り込まれています。

今後は、特に交通マナーの向上などに力を注ぎながら、映画の名場面のような、明るいイメージの「人と自転車が笑顔で行き交うサイクル・エコシティ高松」を目指していきたいと考えています。